

行事予定表	
1	日
2	月
3	火 交通安全教室 (4・5歳児)
4	水
5	木 給食費振替日 (3歳児以上)
6	金
7	土 秋まつり (2歳児以上) ※土曜保育無し
8	日
9	月
10	火 ビヨビヨひろば
11	水
12	木 カレーの日
13	金 巡回相談
14	土
15	日
16	月 敬老の日
17	火 通報訓練
18	水 おへんとうデー
19	木 誕生会
20	金
21	土
22	日 秋分の日
23	月 振替休日
24	火
25	水
26	木
27	金 つくば登山
28	土
29	日
30	月

「不要な外出は避けましょう」とつい最近聞いた様なことをTVが毎日伝えていた。まわりつづくような湿気と熱風じっとしていても汗が噴き出す猛烈な酷暑の夏だった。それなのになぜか、夏の終わりは寂しいテレビを付ければ、メダルがいくつとニッポンニッポンの連呼 同じ画面の繰り返し、これもいつか聞いた日本の姿 8月は鎮魂の月、反戦の月 二度とあの戦禍は起こしてはならない。だが、世界各地で侵略戦争が続いている先の大戦前と同じ状況、不安と恐怖、爽やかな秋、平和な世界を子ども達と喜び合い、守らなければならない



●今月の予定の中から...

- アルファ米を食べよう。(2日) ・今年も、防災の日(9/1)にちなみ、アルファ米とけんちん汁、そして離乳食の子は、備蓄品のお粥を食べる経験をします。
- 秋まつり(7日) ・秋まつりに向けて神輿担ぎや盆踊り、出店ごっこをクラスや異年齢で楽しんでいる所です。行事当日の参加は2歳児以上のクラスです。にじぐみやひかりぐみも園内での活動を楽しんでいます。 ※土曜保育は行いません。
- カレーの日(12日) ・4・5歳児は、エプロン・三角巾の用意は子ども達が出るように見守って下さいね。自分の事を自分でする習慣がつくまでは、大人が確認し、出来た時にはたくさん褒めて、意欲に繋げていきたいですね。
- 通報訓練(17日) ・消防署の方が見えて、避難訓練の様子を見て頂きます。当日は、消防自動車も来る予定です。
- おへんとうデー(18日) ・まだまだ暑い日が続きます。お弁当の中身は、よく冷まし、保冷剤を入れて持たせてください。要冷蔵のものは避けてください。
- 誕生会(19日) ・生まれて来てくれてくれてありがとう! 5歳児の誕生会の始まりの言葉に毎回感動します。

●つくば登山(27日)

・ぞうグループの子ども達がつくば登山に挑戦します。困難な場所もありますが、みんなで力を合わせて頂上を目指します。 ☆今年の十五夜は「9月17日」 ・お月様の中には何が見えるかな? 夜空を見上げてみてくださいね。 ☆にじぐみの唯根梨奈先生が、25日より産休に入ります。



行進と散歩(管理と自由)そして体験

▼格差社会は、教育格差に繋がり、体験と遊びを保障すれば、どこかの避暑地に行くことより、ずっと豊かで十分な体験ができる。公園も、図書館も、シヨッピングセンターも、プールも... なんだってある。 ▼お泊り保育の予定の中に、自然博物館の見学と、野外活動が入っていた。自然博物館の名のとおり、野外の自然も充実している。混雑を予想して開館前に到着、一番乗り。お陰で館内は空いていて、子ども達の興味・関心に合わせて自由に見て回ることができた。案の定、昼近くになると、県外からも沢山の園が来て大混雑。早く来た分、早くお腹が空いて、混雑を避け、早目の昼食。木陰の野外テーブルをゲット。昼食が終わる頃に、近くの集合写真撮影場所に、他のグループが1列になって、ぞろぞろやって来た。行儀よく、2人ずつ手を繋ぎ、整然と行進。写真を撮る前に、懐かしい、いやな光景を見た。1列に整列させるために、手を離させた。そして、前に立った先生がピピッと笛を鳴らすと、子ども達が条件反射のごとく、トントン前、トントン前とやりだした。幼児期ならずとも、人間は自分で考え、自分で判断したことを、自分で行って、自分のやるべきことを分

ことが大切である。これは、自由でなければできない。人に命令されたり、号令を掛けなければできないことではない。命令・号令はいらないのだ。広々とした野外の自然の中、しかも一本道、手を繋ぎ、自由に行動できないようにして歩かせることは行進である。車の往来がある公道ではない自然の中。前と後ろを抑え、間は自由に、自然に触れ、虫を捕ったり、花を見つたり、岩山に登ったり、子ども達のペースに合わせて歩くことで、沢山の体験ができる。写真を撮るために、一列にならなければならぬ時でも「みんな一緒に写真を撮るから、一列になろう」と伝えるだけで、自分で考え、行動して、カメラに向かって並ぶことはできる。笛の合図で、何も考えず無意識にトントン前を繰返すことは、考えない人間を作る。 ▼集合写真の場所は、順番待ちでいっぱいだったので、素敵な花壇の前で撮った。そして、野外の一番奥には、沢に模した高低差のある長い水遊び場がある。そこまで行く間には、アスレチックや岩の迷路などがあり、遊びながら行く水場には、やはりどこのグループも来ている、貸し切り状態。汗をかけた身体に、森林の中の広い沢辺は涼しく、沢をみんなですき止めたり、噴水に乗ったり、十分に水遊びを楽しんだ。 ▼今、話題の体験重視の教育、環境による教育は、ずっと昔から「ふたば」がやってきたことだ。子ども達には、自由に沢山の経験をしてもらいたい。「子ども達の最良の教師は、自らの手である」という。自分の頭で考え、色々な試行錯誤をして、自分で判断し、決定し、自分でやってみて、その結果により、更により良い方向に、失敗したらもう一度考えてやってみるにより、多くの事を学ぶ。

理事長 浅田 精利

